

…ボランティアがつくるニュースレター…

トラストネットワーク

作 成…トラスト通信ボランティア
発 行…(一財)世田谷トラストまちづくり

〒155-0031
世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール7階
Tel・03(6407)3311 Fax・03(6407)3319
<http://www.setagayatm.or.jp/>



No. 71 2016年3月

シンポジウム

みどりのライフスタイルを広げよう！

—成城エリアマネジメントの試み—

シンポジウムは2月21日(日)13時、成城自治会の中川会長、保坂展人世田谷区長などの挨拶で始まりしました。区長は、現在、世田谷区の人口は88万3,200人ほどで、大都市なみの人口をかかえているが、「みどりを活かした成城のまちづくりの成果を区全体の活動へ広げたい」と述べていました。



成城みどりのスタイルブック 保坂世田谷区長

シンポジウムの第1部は「成城みどりのエリアマネジメントに向けて」というテーマで、成城自治会と世田谷トラストまちづくりの協力で進められている「エリアマネジメント」の考え方に基づく「地域共生のまちづくり」の2年間(平成26、27年度)の取り組みの様子が説明されました。とくに、現在進行中の「成城みどりのスタイルブック」の制作プロジェクトについて、28年度はこのスタイルブック

に子ども達の意見を反映させていきたいと抱負が述べられました。

この「成城みどりのスタイルブック」では、次の「みどりづくり7つのポイント」に沿って作業が進められているとの説明がありました。

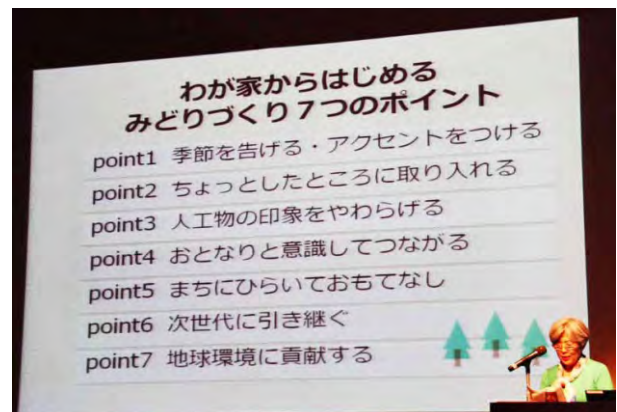
- ① 季節を告げるアクセントをつける
- ② ちょっとしたところに取り入れる
- ③ 人工物の印象をやわらげる
- ④ おとなりを意識してつながる
- ⑤ まちにひらいて、おもてなし
- ⑥ 次世代に引き継ぐ
- ⑦ 地球環境に貢献する

この7つのポイントは、成城のまちで見つけた、成城らしいライフスタイルやみどりづくりの実例から導き出したものだそうです。誰でもできるみどりづくりのガイドを目指しているものです。

このスタイルブックは、平成29年度の完成を予定しています。

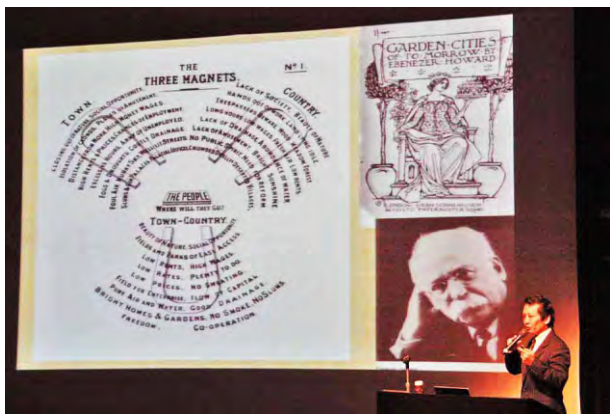
71号の目次

みどりのライフスタイルを広げよう！	1
せたがや散歩道	3
フラワーランドだより	6
かわらばん	8



みどりのライフスタイル

第2部は「みどりのライフスタイルを広げよう！」がテーマです。東京農業大学・阿部伸太准教授(造園科学科)の基調講演では、先生がフランスに留学した際のエピソードをまじえながら、「都市づくりには“景観”というものを考慮することの重要性を学んだ」と話されました。そして、エベネザー・ハワードの田園都市論などを引きながら、郊外住宅地としての成城のまちづくりには、樹木や花など緑を利用して、景観を豊かにすることが重要である、と強調されていました。



続いて第2部の後半は、ワークショップ「暮らしを豊かにするみどりのライフスタイルについて考えよう！」が行われました。同じテーブルについた4、5人がひとつのグループになり、成城町の地図と「成城らしい、ライフスタイル」の図を囲んで、日ごろから感じているみどりやまちづくりについての意見や感想を述べ合いました。ユニークな意見は付箋に書いて図に貼り付けてまとめました。



このワークショップについては、まず2つのグループから成城のまちについてのまとめが発表され、最後に講演者の阿部先生から講評がありました。先生は、「安全で安心なまちづくりをしてほしい。シンポジウムの参加者を含めて若い世代の人が少ないことが気になります。子どもの頃から自然やみどりに関心をもつようにすると、それがまちづくりにつながっていきます…」と話されました。

休憩で一息いれたあと、世田谷区立千歳小学校の吹奏楽団による「スターウォーズ」の主題曲の特別演奏が行われました。東京都のコンクールで金賞を受賞した腕前はレベルが高く、迫力満点の演奏を楽しみました。



ここまででシンポジウムのプログラムは終わりました。その後、特別プログラムとして「トラスト団体表彰式」が行われました。

今年は当財団が、(財)せたがやトラスト協会として発足して27年、現在の「世田谷トラストまちづくり」になってちょうど10周年になります。そこで、旧トラスト協会の時から活動が続けている18のボランティア団体に対して、現財団から感謝状の贈呈がありました。

創立当初からの理念を大事にという思いを新たにした表彰式でした。

表彰ボランティア団体 (50音順)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ● 猪股庭園解説ボランティア | ● せたがやトラスト彰草会 |
| ● 岡本緑地ボランティア | ● せたがや野川の会 |
| ● 経堂五丁目特別保護区ボランティア | ● 竹山市民緑地ボランティア |
| ● 近代建築ボランティア | ● 小さな森ボランティア |
| ● こもれびの庭市民緑地ボランティア | ● トラスト通信ボランティア |
| ● 成城三丁目緑地里山づくりコア会議 | ● なかんだの坂市民緑地ボランティア |
| ● 成城みつ池を育てる会 | ● 野川とハケの森の会 |
| ● せたがや自然環境保全の会 | ● フラワーランド友の会 |
| ● 世田谷すみればネット | ● 野鳥ボランティア |

せたがや散歩道

～水道道路を探る～

水道道路とは

世田谷区内には荒玉と渋谷の水道路が現存します。今回は渋谷町水道路について探ります。

渋谷町水道路は世田谷区鎌田二丁目の砦下浄水所で多摩川の伏流水をくみ上げ浄化して、駒沢の給水塔まで送り出す導水管の埋設された道路です。

かつて大正の末頃、この給水塔から渋谷町一帯への上水道給水事業が渋谷町の町営によって運営され、導水管を埋設した水道路と多摩川に面した砦下浄水所へと接続されていました。

その後、東京市域の拡張により東京府の水道部門へ移管されました。現在は東京都水道局の管理下になり、災害時の給水拠点となっています。

砦下浄水所から野川水道橋へ

かつての玉電砦線の終点、現在のバス停砦本村の隣にあるのが砦下(きぬたしも)浄水所です。ここで多摩川の伏流水を汲み上げ浄化して送り出します。正門前の道路面にいくつかのマンホールふたが見え、この地下に導水配管があるのが想像されます。ここから正門を背にして、野川に向かう道路がこの水道路の始まりとなります。



砦下浄水所正門

約200m進むと野川水道橋、橋の手前右側に水道路橋の由来を説明した表示板と導水管のサンプルが展示されています。



野川水道橋

現在は野川の地下に管が埋められていますが、2006年以前は管は橋に沿って設置され、1960年以前は地下に埋設されていたと説明されています。



野川水道橋の由来の説明板

きのうよりきょうあたたかし橋渡る

野川水道橋から岡本公園民家園

橋を渡るとすぐ多摩堤通に出ます。浄水所から直線状の道がこの先約500m続きます。

鎌田前耕地公園から緑道が続きさまざまな植物が植えられています。小さな表示板があり、緑道の管理については地域住民と世田谷区が協定を結び、清掃管理活動を行なうとの趣旨が説明され、実際に美しく維持されている様子が感じられました。



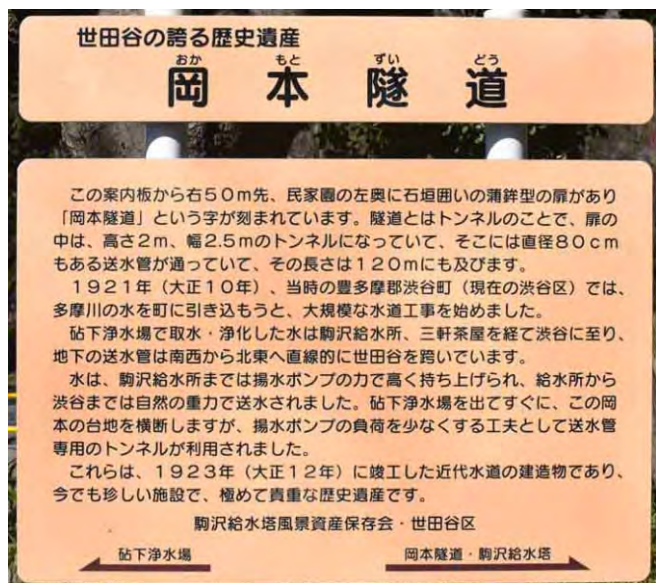
鎌田前耕地公園・緑道

春日向猫の横切る遊歩道

緑道を過ぎると丸子川、その橋を渡るともう岡本公園です。民家園に向かう小道の左側に「岡本隧道」と記した説明用表示板に出会いました。

岡本隧道

表示板の説明を見て、あらためてこれまで導水管の上を約1km歩いてきたのだと感じました。



民家園内に入り民家の左手奥に青い蒲鉾形のふたにふさがれた場所があります。



隧道入口（浄水所側）

それが岡本隧道の入口です。

隧道はちょうど静嘉堂文庫美術館が建てられている丘の地下に、導水管を通す目的で掘られています。砧下浄水所からポンプにより押し出された浄水は、丘を越える力を与えられず、隧道による通路を求め丘を通過したのです。

丘を越えてトンネルの出口へ

丘を越えるために、民家園の隣の岡本八幡神社の境内を通り抜けます。踊場なしの急傾斜の階段48段を上り、神社の脇を抜けて一般道に出ます。しかしそこから先は住宅地に入り込み、右往左往しつつ丘の下り道を見つけ、谷戸川の上に立つもみじが丘バス停前にたどり着きました。



岡本八幡神社の階段上から

そこで振り返るとその場所が隧道の出口でした。入口と同じ蒲鉾形で、網に囲まれ落葉に埋もれていました。



隧道出口（給水所側）

木の茅風鉄扉は固く閉じしまま岡本から用賀へ

地図を見ながら直線状になるような道を選び先へ進みました。瀬田五丁目に入ると電柱看板にフラワーランドの文字が見えるようになりました。近くだろうと角を曲がると目の前にフラワーランド。誰か知り合いがいないかとひと休みしました。



環八通りを横切り、首都高速の下を抜けて用賀へ向かって進みました。この辺りには「世田谷百景」の用賀観音で知られる無量寺、朱塗りの山門で別称赤門寺で知られる真福寺があります。



真福寺

大山道追分から分岐

新旧大山道の分かれ道、追分付近には水道道路の存在を示す石碑が建てられています。その水道みちもこの地点で2ルートに分かれています。



この石碑の奥30mに水道みちの石碑があります

一方は大山道(新道)沿いに田園都市線の地下路線に沿って桜新町駅方向へ、他方は大山道(旧道)を経て、新道とほぼ平行のルートを通り給水所の近くで



石碑の設置場所は用賀3-14

新道ルートと合流して給水所に至っています。今回は旧道経由で進みます。

給水所へ

用賀から桜新町へと住宅・マンション街を進むと、「市民緑地-桜新町二丁目ウレシパモシリ」の案内板が目に入りました。ちょっと一休みで、中へ入ると落ち着いた雰囲気と紅白の梅が咲き街中の憩いを味わいました。

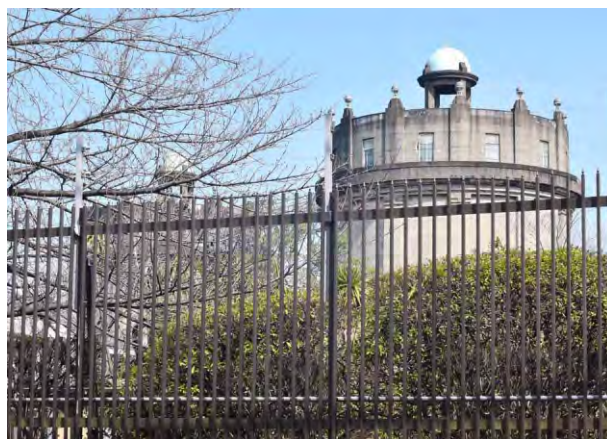
新町三丁目に入ると整然とした街並みを感じました。昭和初期に同潤会が開発したそうで、その面影を感じさせます。斜めに走る路地で、ふと左を見ると大きな給水塔が近くにそびえています。駒沢給水所に到着したのです。

垣間見る双子の塔や風光る

駒沢給水塔は渋谷町への給水のために貯水タンク2基とポンプを備えています。



これらの設備と弦巻地域の渋谷町一帯との標高差により給水を行っていました。現在 1,570m³/h の給水量を維持しています。



17,000m²の敷地の広さと建物だけでなく、多くの植栽を合わせたの景観が世田谷区地域風景資産として登録されています。最近では公益社団法人土木学会より選奨土木遺産として認められたそうです。



給水所から北東に一直線。三軒茶屋から渋谷へ向かう水道道路です。正面にキャロットタワーが見えます。

フラワーランドだより

フラワーランド・花づくり教室について

1. 27期生募集

待ちに待った花づくり教室27期生の募集が行われました。募集が3年ぶりだったことと、土と農の交流園で一部のコースの募集が中止されたので、希望者も多かったようです。

講習期間は2年間で、1年目は学習（教室内的勉強）、2年目は実習（実際の作業を行う）。ただし、これまでは、1週間に1回だった勉強等が1月に2回と減らされました。募集人員は30名で、受講料は2年間で1万円（ただし、別に教材費等の実費負担があります）。

2. 進路説明会開催について

2月5日（金）午前9時半から花づくり教室26期生のための「花づくり実践団体活動事例紹介&交流会」が開催されました。

この交流会は、受講生が花づくり講習会の受講終了後に各地域で花づくり活動を始めるにあたり、すでに活躍している諸先輩等を招き、ボランティア活動についての説明を受け、意見交換等をして今後の進路に役立ててもらおうということで毎回、受講終了間際に開催されます。

今回説明に参加されたボランティア

説明参加した団体名
谷川花の会
フラワーランド園芸ミニデイ
芦花公園花の丘友の会
世田谷すみればネット
祖師谷公園ホピークラブ
こもれびの庭/いらか道市民緑地
フラワーランド友の会
成育医療研究センターボランティア

グループを左および右上表に示します。

最初に、世田谷区のみどり33と（一財）世田谷トラスト

資料提供した団体名
等々力フラワークラブ
共愛フラワークラブ
成城ビクターセンター花壇ボランティア
船橋小径の会
ドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや グリーンボランティア

まちづくりが取り組んでいる緑保全政策等とボランティア活動の必要性についての講話の後、

各グループがグループ結成のいきさつ、活動内容、担当公園・花壇等の説明を行いました。

面積の大きい公園等の場合は、雑草との闘いが大変なようです。

26期生は、当初、受講者36名でしたが、修了予定者は25名。当日出席者は20名とのことでした。

3. 友の会の入会について

花づくり教室の受講者数は30名ですが、若干の変動はあるようです。23期生は32名が受講を認められ、その後、転居等で4名が受講を中止したため修了者は28名でした。受講修了者の大部分が、フラワーランド友の会に入会するのですが、直近4年の友の会への入会人数は、次の通りです。

22期生（平成22年3月修了者）は14名、23期生は20名、24期生は9名、25期生は19名で、26期生（平成28年3月末終了）は未定。入会者数は年によってかなり異なっていますが、花づくり教室での勉強期間中に仲間意識を育てられるかどうかによって異なるのかも。ちなみに23期生は「23会」を結成し、現在でも毎月1回は親睦会を兼ねて植物観察会等を行っています。

4. ボランティア活動期間について

フラワーランド友の会に入会した後、何年くらいボランティア活動を続けるのでしょうか。年齢の違いはある

のですが、活動期間は名簿で確認出来ます。なお、退会者数を見るために平成23年度と平成27年度の在籍者名簿を比較しながら活動期間と人数を見てみましょう。

なお、講習の受講期間は7期生までは1年。8期生から25期生までは2年間。26期生は3年間です。

平成23年度の名簿によると会員数は123名

期生	23年在籍	27年在籍	減少人数
9期以前	3	1	2
10	1	1	0
11	1	0	1
12	7	6	1
13	3	2	1
14	12	8	4
15	12	9	3
16	6	4	2
17	11	4	7
18	6	4	2
19	10	7	3
20	8	4	4
21	9	3	6
22	14	9	5
23	20	12	8
24		6	
25		17	
total	123	97	49

表1 ボランティア活動期間

ですが、平成27年度の名簿によると平成23年度以前の在籍者数は、休会者を除くと74人で、4年間に49名の減少となっております。ある程度作業になれた会員でも1年間に12名程度（約1割）は退会している計算になります。

また、友の会の会員のボランティア活動期間についてみると、平成27年度末で最長が20年間、最短が3年間です。各人の活動年数の合計が830年で、これを休会者を除いた会員数97名(女性73名、男性24名)で割ると8.55年となります。友の会の会員の平均活動期間が8年から9年ということで、会員の補充が今後の大きな課題となりそうです。

5. 友の会内での活動について

花づくり講習受講後に友の会に入会する場合は、草花、山野草・桜草、大菊、コアサ、ハーブ、バラ、宿根草、コンテナの8部会のうちのいずれかに入会し、原則として、各部会が任されている植物の栽培管理だけを行うこと

になっています。バラ部会に入会した者は、大菊の栽培管理等を行うことはできません。

そのため、入会希望者がいない部会は会員数が減り、部会が担当する植物の栽培管理等を行うことができなくなり、小菊部会と朝顔部会、サギソウ部会は合併して「コアサ」部会となりました。

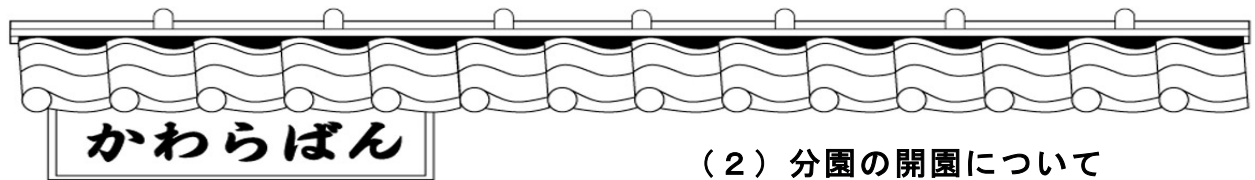
部会への入会の際は、仲間を誘い合ってということになるようで、年によって異なり、15期生は9名全員が宿根草部会に所属し、12期生は6名のうち5名が草花部会に所属しています。

6. 花づくり教室修了者についての今後の課題

花づくり教室修了後、数年間、園芸ボランティア活動に従事していますが、区内の緑化活動を中心とするボランティア団体を通して、まず気になるのは新しい知識を習得する機会が極端に少ないということです。

それから団体によって会員同士が親しくなる機会が少ない団体と、多い団体があるということです。例えばフラワーランド友の会は、会員数が多いだけに自分の所属する部会の会員とは親しくなるのですが、他の部会の会員と話をする機会はめったにありません。作業を終えたら自宅に直帰というのでは、日常生活のストレス解消などの役には立ちそうもありません。

いくらボランティア活動といっても、何もメリットがないというのでは、その活動自体は長続きしないでしょう。会員のメリットという点に重点を移せば、各団体とも会員の減少に悩むことがなくなるのではないのでしょうか。



かわらばん

トラストネットワークNo. 70を読んで

・発行以来70号も続いたことは素晴らしい。地味な活動と思いますが、ボランティアの皆様がどんな活動をしているか、世田谷の様子がどのようになっているかを知る大きな手がかりだと思います。永く続くことが大事だと思います。「トラストネットワーク70号」おめでとうございます。

・トラストネットワークの表紙上に「皆様の声や情報をお届けするミニコミ紙」とうたっていますがこの目的は何か。「皆様」とは誰なのかわかりません。

・読む方々が求めている情報は、どんなことでしょうか。写真や図が多くなって、より見やすくなっていると思います。文章も、もう少し簡易に読みやすくしていただけたらいいかと思いますが。内容のカタさを感じますが(子どもでも読めるといい)、読者の対象はどなたでしょうか。

フラワーランドの拡張について

(1) 拡張案

平成28年度中にフラワーランドは大きく変わりそうです。

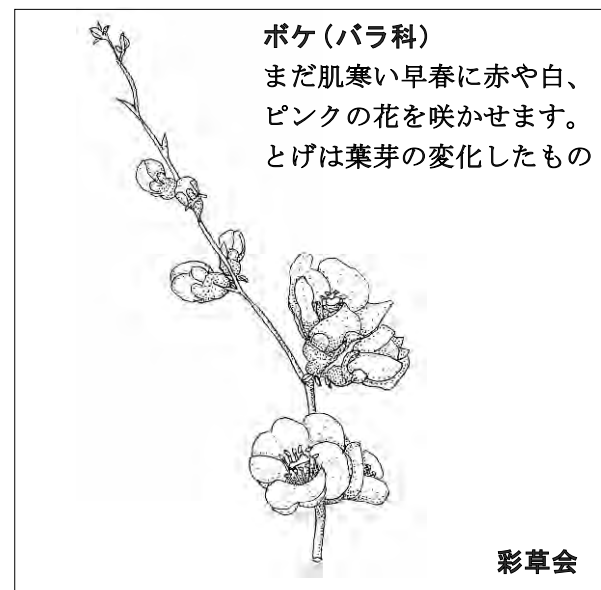
フラワーランドの奥の苗圃（一般の立入りが禁止されている部分）の南側の果樹園の部分が公園に編入され、西側の施錠されている入口が開放される計画です。工事が終了次第、西口の門からもフラワーランドに出入りできるようになるとのことです。

(2) 分園の開園について

瀬田5丁目11番地の農地を新たに瀬田農業公園分園として整備する予定です。ただし、こちらの方は花卉を中心とした公園ではなく、野菜等を栽培する農業公園となるそうです。

9月に予定している開園の際はイベントや、農業体験講座を通して運営協議会を立ち上げ、人材を育成していく予定だそうです。

農作物の栽培管理は花卉と違って、長い畝の「雑草駆除」、「土かけ」等、力仕事になりがちですが、収穫の喜びを味わう楽しみがあるでしょう。



編集後記 …春遠からじ、とはいえず中々寒さが消えず、野外での取材を予定しにくい時季です。

水道道路の取材は時間が掛かりました。また駒沢給水塔風景資産保存会の方には大変お世話になり、記事が纏まりました。有難うございました。

71号作成に関わったメンバー

大泉定雄 片寄正史 北畠明子 須永澄子
高梨麻実 田澤與光 野武一郎 宮下正雄